

新旧課程対応

〔地理総合・地理探究〕
地理A・地理B

別冊白地図
作業帳付き

2022年度
改訂案内

図説地理資料
世界の諸地域
NOW 2022

世界と日本のNOW (いま) がわかる!

唯一の“地誌”重視の資料集

ご採用特典

Webサポート



Check!



サンプルはこちらから!

帝国書院

※本冊子に掲載されている内容は、一部変更となる可能性があります。

世界と日本の **いま** **NOW** がわかる！ 唯一の“**地誌**”重視の資料集

注目ページ

世界の最新情勢を2022年版でも反映 NOWページ

中国と東南アジアなどで新テーマに差し替え。常に地域の最新事情を追究しています。

p.4-5

地球的課題の解決を考えるSDGsについての特集 「サステイナブルシティ構築への挑戦」

新学習指導要領「地理総合」の学習に対応しています。

p.6-7

基本特色

写真資料や地図を豊富に掲載 世界の諸地域・日本の諸地域

豊富な写真や地図、囲み記事などから、現地のイメージがふくらみます。

p.8-9

新課程の学習にも対応 別冊「地形図・白地図ワーク」

GISの作業ページを新規に掲載（4ページ増）しています。

p.10-11



AB判 266ページ

別冊「地形図・白地図ワーク」(32ページ)付き

定価 978円(本体 889円+税)

印刷：2022年2月20日

発行：2022年2月25日

指導用Webサポート

(1) 別冊『地形図・白地図ワーク』32ページ分 (.pdf)

(2) 動画 24点 (.mp4)

裏表紙

ユニコーン企業（企業価値が10億ドル以上の有力新興企業）はICT分野などに集中し、なかでも中国が注目されています。その背景について紹介しています。

NEW

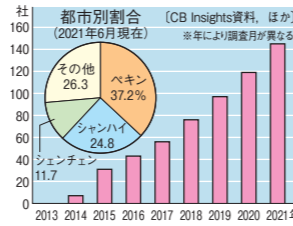
躍進する中国発のスタートアップ企業

世界第2位の経済力と、14億という世界一の人口を背景に、中国社会は今、目まぐるしく、かつ、独自の発展を遂げている。スマートフォンを使った電子決済や電気自動車（EV）などの最新技術が国の政策などにより積極的に実用化されている。

近年、世界で存在感を増しているのが中国発のスタートアップ企業（新興企業）で、なかでも注目されているのが「ユニコーン企業」とよばれる創業10年未満、評価額10億ドル（1ドル110円換算で1100億円）以上の非上場新興企業である。例えば、日本でも若者に人気のショート動画共有アプリ「TikTok」を運営するバイトダンス社は、中国を代表するユニコーン企業であり、今や中国のユニコーン企業数はアメリカ合衆国に次いで世界第2位である（2020年2月現在）。

最新テクノロジーを扱うユニコーン企業が集積しているのが、ベキン市内でも多くの大学や研究機関が集まる中関村というエリアである。中関村は、1988年に中国初の国家ハイテク産業開発区が設立された地であり、高度な知識・技術をもつ人材が多く集まっている。先行して巨大企業に成長したICT企業もこのエリアに拠点を置いているため、大学や複数企業と連携して研究・開発を行えることが、中関村でユニコーン企業が生まれる文化的土壌となっている。一方、増加する大卒者の就職先が不足していることも、起業家が多く生まれる要因といわれている。

大学や研究機関が集積するベキンの中関村エリア



中国におけるユニコーン企業数の推移と都市別割合



起業家が集まる中関村のカフェ（中国、ベキン、2018年）



海洋進出を強める中国



南沙群島（スプラトリー諸島）のジョンソン南礁の変遷

わずか4年前までは岩礁しかなかった場所に、中国が複数のビルや桟橋をもつ人工島を建設した。

南シナ海では、中国とベトナムなどが西沙群島（パラセル諸島）の領有権を主張し、その南部の南沙群島（スプラトリー諸島）の領有権は、中国、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ブルネイなどにより争われ、紛争の海となっている。

とくに中国は1992年に領海法を制定し、徐々に南沙群島を事実上の支配下においていった。2014年には若礁の大規模な埋め立てを開始して、人工構造物を建設し始めた。その根拠は、中国が独自に定めた九段線（9本の境界線）である。中国は、南シナ海のほぼ全域を囲い込むようにU字形に描かれる九段線の内側には、歴史的に中国の主権と管轄権が及び主張してきた。しかし、フィリピンがこの九段線の違法性を主張して提訴した仲裁裁判所判決が2016年7月に出された。判決では九段線に基づく中国の歴史的権利の主張には法的根拠がないこと、中国がフィリピンの有する南シナ海での主権を侵害したこと、サンゴ礁の環境を損傷して国連海洋法条約の海洋環境保護義務に違反したことなどが結論づけられた。

この判決が無効で法的拘束力はないと主張する中国に対し、今後、南シナ海を友好の海とするために、フィリピンと中国による判決にしたがった対話が求められている。

Table listing construction progress of artificial islands in the South China Sea, including Sbi Reef, Pan Reef, and others.

（東京国際大学 根本 和幸）

「ラストフロンティア」（最後の開拓地）として日本企業も多く進出するミャンマーで、2021年2月に発生したクーデターによる影響を紹介しています。

現地取材 厳しい品質管理でおいしいえびを

スマトラ島南東部のパンダランランから車で7時間かかる場所に、世界一の規模とされるえびの養殖場がある。その広さは北海道のサロマ湖とほぼ同じ155km²に及び、1万6000面もの養殖池が並ぶ。かつては大企業が経営していたが、1997年のアジア通貨危機をきっかけに破綻した。その後、残った労働者が個人でえびの生産を続け、現在は個人生産者の組合として復活している。

えびは約120日（飼育90日＋池の清掃30日）をサイクルとして生産され、1年に3回出荷されている。えびは1日3回、化学物質を使わない自然由来のものが与えられる。化学物質を使うと養殖池は1～2年で使用できなくなるため、長期間同じ場所で養殖を続けられるのは、化学物質を使っていない証拠でもある。

一方、都市近くにある加工工場では、えびをそのまま冷凍したものから、解凍すればそのままずしわたとして使えるように加工されたものまで、日本向けにさまざまな製品がつけられている。工場内に入るために入念なボディチェックが行われ、入室のたびに手洗いと着替えを行うなど、衛生管理が非常に厳しい。殻むきは手作業で行われるが、手袋をはめて素早く作業することで、えびは常に3℃以下になるように衛生面とともに鮮度にも気を使っている。



インドネシアのえび輸出額の推移

品質管理を徹底しながらの加工作業

えび養殖池にえさやりをする作業員

東南アジア NOW



氷水につけられたえび

収穫は池の水を抜いてから近所の人や友人と一緒に網を手を使って行う。収穫するとすぐに洗って氷と一緒に詰めて加工工場に送る。個人で経営するようになってから売り先や価格を自由に決められるようになり、収入はかかなり増加した。



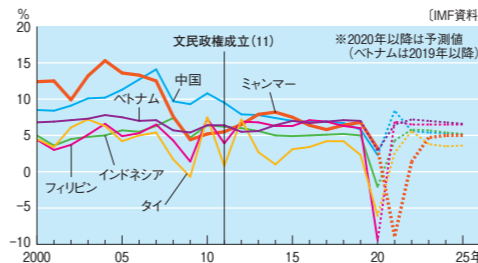
動画 check



NEW

「ラスト・フロンティア」ミャンマー、クーデターの影響

ミャンマーは、1962年から26年間続いた閉鎖的な経済運営と、1990年から21年間続いた諸外国による軍事政権への経済制裁が原因で、近隣のアジア諸国のような経済発展の波に乗れず、取り残されていた。しかし、2011年の文民政権発足を受け、諸外国は経済制裁を緩和し、経済援助を再開した。それを契機に、ミャンマーは、アジアの「ラスト・フロンティア」として注目され、外国から多額の投資が流入し、経済は活況に沸いた。ヤンゴンの郊外に同国初の経済特区として設置されたティラワ経済特区には、日本企業が運営に参画し日本政府の支援でインフラが整備された工業団地も造成され、日本を含む多くの外国系企業が進出した（写真⑦）。しかし、2021年に軍によるクーデターが発生し、政治社会情勢が混乱するなか、進出企業はミャンマーでの事業縮小を余儀なくされている。



おもな東南アジア諸国と中国の経済成長率

周辺諸国の経済は、2020年のコロナ・ショックからの回復が続く予想であるが、ミャンマー経済は、軍のクーデターによる政治情勢混乱の影響で回復が遅れる見込みである。



軍事クーデターに対するデモで治安部隊に催涙ガスを発射され逃げる市民たち（ヤンゴン、2021年）

ティラワ経済特区に進出した日本の自動車メーカー（ヤンゴン郊外、2019年）



（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 堀江 正人）

- 進化する情報通信の未来について、スマートシティの現状と取り組みを紹介する巻頭特集です。
- 新学習指導要領「地理総合」のキーワードである「グローバル化」「SDGs」「脱炭素」などを取り上げています。

▼巻頭 1-巻頭 2

NEW

巻頭特集

サステイナブルシティ構築への挑戦



私たちは地球温暖化やエネルギー問題など、さまざまな地球的課題を抱えている。限られた地球の資源を次世代にわたって有効に利用し、環境を保全しながら生活していくためには、持続可能な社会の構築が不可欠である。急速に発達する情報通信技術 (ICT) を生かして、世界ではどのような取り組みが始まっているのだろうか。

ドバイの取り組み

アラブ首長国連邦の構成国の一つ、ドバイ首長国では、その中心都市ドバイをスマートシティ化することを目指す国家戦略「スマートドバイ」が掲げられ、生活・経済・公共サービス・交通・環境などのさまざまな分野での ICT 化が進められている。



↑2 サステイナブルシティのドーム型温室 街の中心部にある11機のドームの中は、外気が高温になる真夏でも気化熱によって適温に保たれ、野菜が育てられている。住民はクーポンで生産した野菜を購入できる。



↑3 電気バギーに乗るサステイナブルシティの住人

↑1 ドバイ郊外のサステイナブルシティ ドバイの都心から約30km南方に2017年に建設された街。東京ドーム9個分の敷地に500軒の住宅や学校・商業施設などがあり、約2000人の住民が暮らしている。電気は各建物の屋上に設置された4万枚の太陽光発電パネルで自給し、水やごみも循環再生させるなど、ほぼすべてのエネルギーを街の中で生み出す。住宅の購入者は無料の電気バギーと充電ステーションが利用でき、ガソリン車の使用は禁じられている。

→4 ドバイ国際博覧会のサステナビリティ・パビリオン(アラブ首長国連邦、ドバイ、2021年) パビリオンの周りには、会場の電力を賄う「エナジーツリー」という名の太陽光発電設備が林立している。稼働すると太陽光発電パネルが設置されたパラボラアンテナ形の円盤が太陽を追尾する。



←5 ドバイのスマートモビリティ戦略の一つ、自動運転電気自動車「pods」(ドバイ、2018年) 1台なら配車タクシーとして、複数連結すると自動運転バスとして機能する。



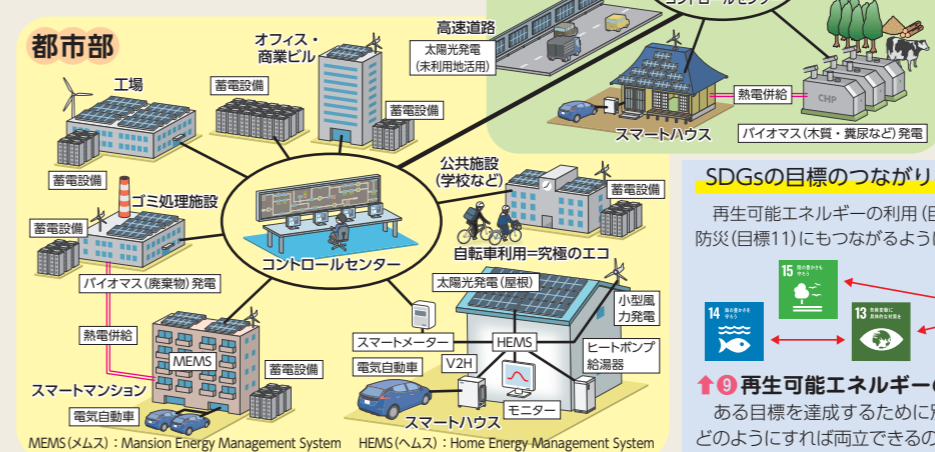
↓6 開発中の次世代交通システム「Hyperloop」 減圧したチューブ内を浮上して時速約1200kmで進む、自動車で90分かかるとドバイ-アブダビ間を約12分で結び計画が進行している。



持続可能なエネルギーシステムとは

エネルギーシステムの脱炭素化と、災害に強い街を構築するために、再生可能エネルギーによる発電や、地域全体を送電網で結んでエネルギーを有効利用するシステムの導入が進められている。

↓7 スマートシティ、サステイナブルシティとは 小規模分散型で、再生可能エネルギーを用いて、電気自動車 (EV) などに蓄電して電力の自給自足をするシステムをスマートグリッドというが、これを情報通信技術 (ICT) で制御してエネルギーをはじめ都市機能全体をネットワーク化した都市をスマートシティという。このような都市は、持続可能なシステムを導入しているため、サステイナブルシティとよばれることも増えてきた。



↑8 V2Hのモニター画面(東京都) V2H (Vehicle to Home) は、太陽光発電の電力を電気自動車に蓄電し、夜間や停電時は車から給電するシステムで、エネルギーの地産地消の基本となる。

SDGsの目標のつながりをとらえよう (巻末1~2)

再生可能エネルギーの利用 (目標7) は、気候変動への対策 (目標13) や防災 (目標11) にもつながるように、各目標は相互に関連をもっている。



↑9 再生可能エネルギーの利用(目標7)と各目標の関連 ある目標を達成するために別の目標の達成を犠牲にしてはならず、どのようにすれば両立できるのかを考えて達成することが大切である。

日本国内の取り組み

日本国内でも、神奈川県藤沢市や千葉県柏市などの都市部や、岐阜県郡上市の農村部など各地域で、持続可能な地域社会の構築に向けて、小規模分散型システムで、エネルギーの地産地消を目指す取り組みが始まっている。



↑10 各住宅や提供公園の施設に太陽光発電パネルが整備された街「Fujisawa SST」(神奈川県、藤沢市)



→13 農業用水を活用した小水力発電を行う石徹白集落(岐阜県、郡上市、2017年) 用水を流れる水で水車を回すことで発電した電力は、公共施設や農産物加工所などで用いられ、エネルギーの地産地消の好例として注目されている。



←11 写真10の街で実証実験が行われている自動運転の宅配ロボットサービス(藤沢市、2020年)



●全 262 ページ中 164 ページ (62.6%) が地誌ページです。世界と日本の自然、くらし、産業などの写真や図版を大きく見やすく掲載しています。

●地理用語を解説する「用語」欄、世界各地と日本のさまざまな結びつきを紹介する「ここにも NIPPON」欄など、学びやすく教えやすい工夫も満載です。

注目ページ

基本特色

1 東西で異なる地形

アラスカ
北緯50～70度に位置するアメリカ合衆国の州の一つで寒冷な気候。新期造山帯に位置し、平均標高が3000mをこす山岳地帯でもある。

北アメリカ大陸西部
ロッキー山脈を中心とした山岳地帯であり、海岸沿いと河川流域にわずかに平野がみられる。沿岸部は温暖だが、内陸部は乾燥し、盆地や砂漠も広がる。

北アメリカ大陸中央部・東部
北アメリカ大陸中央部には、プレーリーやグレートプレーンズなどの平原が広がる。東部にはアパラチア山脈がはしる。

アングロアメリカの自然環境
北アメリカ大陸の西部には急峻なロッキー山脈が、東部にはなだらかなアパラチア山脈が南北にのびている。大陸中央部にはグレートプレーンズや中央平原が広がっており、五大湖周辺からカナダ東部にかけては氷河地形もみられる。アメリカ合衆国は、西経100度付近を境に、東側の湿潤地域と西側の乾燥地域に分けられる。

機体の製造分担
アメリカ合衆国 日本 その他

↑⑩ グランドキャニオン(アメリカ合衆国, アリゾナ州)

14 航空宇宙産業

↑⑧ ボーイング787型機の生産工場(アメリカ合衆国, サウスカロライナ州, 2013年) (p.120)
大手航空機メーカーであるボーイング社の旅客機ボーイング787の開発・製造には日本が大きくかかわっている。全日空が世界に先駆けて発注、導入を行い、日本企業の機体製造割合は約35%である。日本をはじめ、フランスやイタリアなどの各国と分業体制をとり、従来機と比べ燃費を2割近く向上させたとされるなど、最新技術を集めてつくられている。写真は機体を仕上げる最終組み立て工場。

↑⑩ おもな国の航空宇宙産業生産額
2011年7月にスペースシャトルが退役したが、現在もアメリカ合衆国が世界の航空機・宇宙産業をリードしている。

国	生産額 (億ドル)
アメリカ合衆国	2424
フランス	772
ドイツ	472
イギリス	467
カナダ	244
日本	198
イタリア	191

用語 軍産複合体
軍産複合体とは、軍と産業界(研究部門も含む)が新兵器の研究・開発などで協力体制をとり、社会に大きな影響力を及ぼすことをさす。もともとは第二次世界大戦時、ナチス・ドイツの新兵器開発に対抗するために形成されたものだが、戦後、ソ連との冷戦状況下でさらに大きな影響力をもつようになった。航空機産業や先端技術産業が他国より発展したのは、戦争による軍事産業の育成が、新しい技術の開発に結びついたためである。

↑⑨ ボーイング787の機体製造分担
世界各地でつくられた部品は、アメリカ合衆国内の最終組み立て工場に運ばれて仕上げられる。

!ここにもNIPPON 宇宙できらりと光るニッポン

地上約400kmの上空で宇宙飛行士たちが長期に活動を行う国際宇宙ステーション(ISS)では、日本人宇宙飛行士だけでなく、日本の技術や施設も重要な役割を担っている。そのようすをみてみよう。

↓⑪ 日本の無人補給機「こうのとりに」を搭載したH2Bロケットの打ち上げ(鹿児島県種子島, 2015年8月19日)

→⑫ ISSに到着した「こうのとりに」(2015年8月24日)
ISSでは宇宙飛行士の油井亀美也さんがロボットアームを操作し、「こうのとりに」をつかまえた。地上では、アメリカ航空宇宙局(NASA)で若田光一さんが交信を担当し、無事にミッションを達成した。

▲ p.134 アングロアメリカ (自然環境)

▲ p.147 アングロアメリカ (工業)

- 新課程「地理総合」で重視される GIS について、作業ページを新規に掲載しています (4 ページ増)。
- 二次元コードから WebGIS にリンクさせ、画面から読み取れることを考察させる問いを設置しています。

NEW

GISの活用

2 統計地図の見える化～世界の国々

↓ 国別の基本統計

国名	面積 (千km ²) 2019年	人口 (万人) 2019年	人口密度 (人/km ²) 2019年	人口増減率 (%) 2010-2019年の平均	GDP (億ドル) 2019年	GNI (億ドル) 2019年	1人あたり GNI (ドル) 2019年
世界	130,094.0	771,346	59	1.2	876,975	887,815	11,570
アジア	44,578.0	4,648.0	103	0.8	10,120.0	10,120.0	97.8
アフリカ	30,370.0	1,212.0	40	2.5	2,100.0	2,100.0	51.2
ヨーロッパ	10,180.0	740.0	73	-0.1	15,000.0	15,000.0	204.0
北アメリカ	24,720.0	370.0	15	0.0	17,000.0	17,000.0	405.0
南アメリカ	17,820.0	450.0	25	0.0	5,000.0	5,000.0	111.0
オセアニア	9,000.0	0.4	0	0.0	1,000.0	1,000.0	250.0

QRコードを読み込むか、下のアドレスを入力して、世界の統計地図をWeb上で表示してみよう。
<https://arcgis.is/rq9CG>

国名	面積 (千km ²) 2019年	人口 (万人) 2019年	人口密度 (人/km ²) 2019年	人口増減率 (%) 2010-2019年の平均	GDP (億ドル) 2019年	GNI (億ドル) 2019年	1人あたり GNI (ドル) 2019年	
スーダン	1,847.0	4,020	22	2.4	189	255	590	
赤道ギニア	28.1	140	50	4.3	110	88	6.460	
セネガル	0.5	9	214	0.8	17	16	16.870	
タンザニア	947.3	5,589	59	2.8	236	236	1,450	
チャド	1,284.0	1,569	12	3.3	113	112	700	
中央アフリカ	623.0	449	7	0.5	22	24	520	
チュニジア	163.6	1,172	72	1.0	388	393	3,360	
トーゴ	56.8	761	134	2.6	55	56	690	
ナイジェリア	923.8	19,339	21	2.7	4,481	4,079	2,030	
ナミビア	824.1	245	3	1.8	124	126	5,060	
ニジェール	1,267.0	17	16	3.9	129	131	560	
ブルキナファソ	273.0	2,087	76	3.0	157	161	790	
ブルンジ	27.8	1,204	433	3.2	30	32	280	
ベナン	114.8	1,149	100	2.8	144	148	1,250	
ボツワナ	582.0	233	4	1.3	183	176	7,660	
マダガスカル	587.0	2,662	45	2.7	141	141	520	
マラウイ	117.7	1,756	149	2.8	77	72	380	
マリ	1,240.2	1,941	16	2.9	175	173	880	
モザンビーク	1,221.0	5,877	48	1.6	3,514	3,535	6,040	
南スーダン	658.8	1,232	19	2.4	150	117	1,090	
モザンビーク	799.4	2,931	37	2.8	149	145	480	
モーリタニア	2.0	126	640	0.2	142	161	12,740	
モロッコ	1,030.7	3,988	4	2.9	76	75	1,660	
モロッコ	446.6	3,558	80	1.4	1,187	1,181	3,190	
リベリア	1,676.2	616	15	4	0.7	521	518	7,640
リベリア	111.4	447	15	40	2.8	31	29	580
ルワンダ	26.3	1,237	470	2.5	101	104	820	
ルワンダ	30.4	200	66	0.6	25	29	1,360	
アイスランド	103.0	35	3	0.6	242	263	72,850	
アイスランド	69.8	490	70	0.4	3,887	3,074	62,210	
アルバニア	28.7	286	100	-0.4	153	149	5,240	
アンドラ	0.5	7	163	-1.6	32	—	—	
イタリア	302.1	6,042	200	0.4	20,012	20,777	34,460	
ウクライナ	603.5	4,215	70	-0.4	1,538	1,416	3,370	
エストニア	45.3	132	29	-0.3	314	308	23,220	
オーストラリア	83.9	885	106	0.6	4,463	4,554	51,300	
オランダ	41.5	1,728	416	0.3	9,091	9,221	53,200	
北マケドニア	25.7	207	81	0.1	127	123	5,910	
ギリシャ	132.0	1,072	81	-0.4	2,099	2,178	20,320	
イギリス	242.5	6,679	275	0.7	28,271	28,318	42,370	
クロアチア	56.6	407	72	-0.4	604	606	14,910	
コソボ	10.9	178	163	—	79	83	4,640	
サンマリノ	0.1	3	574	1.3	16	—	—	
スイス	41.3	851	206	1.2	7,031	7,331	85,500	
スウェーデン	438.6	1,023	23	0.8	5,308	5,743	55,840	
スペイン	506.0	4,693	93	-0.1	13,941	14,308	30,390	
スロバキア	49.0	545	111	0.1	1,054	1,053	19,320	
スロベニア	20.3	208	103	0.3	537	538	25,750	
セルビア	77.5	696	90	-0.3	514	488	7,020	
チェコ	78.9	1,066	135	0.1	2,465	2,347	22,000	
デンマーク	42.9	581	135	0.5	3,481	3,679	63,240	
ドイツ	357.6	8,301	232	0.2	38,456	40,335	48,520	
ノルウェー	323.8	532	16	1.2	4,033	4,412	82,500	
バチカン	0.44	0.1	1,398	0.0	—	—	—	
ハンガリー	93.0	977	105	-0.3	1,610	1,577	16,140	
フィンランド	338.5	554	16	0.4	2,688	2,737	49,580	
フランス	640.6	6,702	105	0.5	27,155	28,430	42,400	
ブルガリア	110.4	700	63	-0.6	679	656	9,410	
ベラルーシ	207.6	947	46	0.0	631	595	6,280	
ベルギー	30.5	1,145	375	0.6	5,296	5,437	47,350	
ポーランド	51.2	349	68	-1.5	200	203	6,150	
ポーランド	312.7	3,797	121	-0.2	5,922	5,773	15,200	
ポルトガル	92.2	1,027	111	-0.4	2,377	2,370	23,080	
マルタ	0.3	49	1,565	0.9	148	137	27,290	
モナコ	2.02	3	18,861	1.1	18	—	—	
モルドバ	33.8	268	79	-0.1	120	106	3,930	
モンテネグロ	13.8	62	45	0.1	55	56	9,010	
ラトビア	64.6	192	30	-1.2	341	339	17,730	
リトアニア	65.3	279	43	-1.3	542	529	18,990	
リトアニア	0.2	3	241	0.8	66	69	116,430	
ルセツェン	2.6	61	237	2.2	711	458	73,910	
ルーマニア	238.4	1,941	81	-0.5	2,501	2,445	12,630	
ロシア	17,098.2	15,400	15	0.2	16,999	16,516	11,260	

※Web上のデータと一部数値が異なる場合があります。

別冊 p.4-5 GISの活用 統計地図の見える化 ～世界の国々

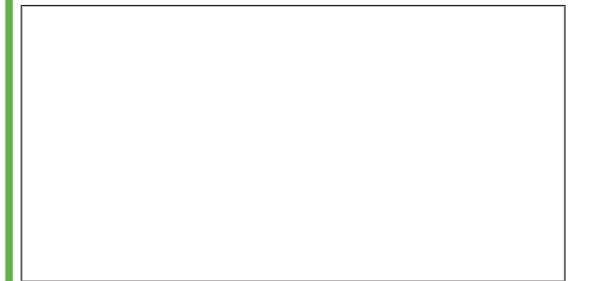
GISの活用

●考察テーマ①「人口密度」

作業 Web上に「人口密度」の階級区分図を表示しよう。

読図 人口密度の高い国 (200人/km²以上) が多く分布している地域はどこか、その要因や背景を考えてみよう。

一方で、面積が広く、人口密度が低い国を2~3か国あげ、人口密度が低い要因や背景を気候や風土にも着目して考えてみよう。



●考察テーマ②「人口増加率」

作業 Web上に「人口増加率」の階級区分図を表示しよう。

読図 人口増加率の高い国 (2%以上) が多く分布する地域はどこだろうか。そして人口増加率が高い要因や背景は何かを考えてみよう。



●発展テーマ②「資料集掲載の階級区分図との比較」

読図 Web上に「1人あたりGNI」の階級区分図を表示しよう。そして、資料集の統計地図と比較して、読み取れることをまとめよう。

(比較する統計地図の例)
 [COMPLETE]・p.189⑨の「各国の100人あたりブロードバンド契約者数」
 ・p.199⑩の図のうち、「おもな国・地域の平均寿命」
 [NOW]・p.229⑩の図のうち、「ODA受取額の多い国」

(1) 二次元コードからWebGISにリンクします。

(2) WebGISを使って表現された統計を読み取ります。

(3) 発展問題として、地図を重ね合わせる問いに取り組みます。

注目ページ

基本特色

Webサポートのご案内

ご採用校の先生方は、授業やテストに役立つコンテンツを閲覧・ダウンロードできる指導用 Web サポートを無料でご利用いただけます。

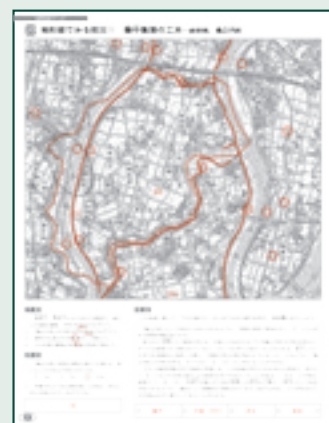
ご採用校限定の
無料コンテンツ!

収録コンテンツ

(1) 『地形図・白地図ワーク』(.pdf)

「新詳地理資料 COMPLETE」と「図説地理資料 世界の諸地域 NOW」に共通の別冊『地形図・白地図ワーク』を収録しています。

▶別冊 p.18 「地形図でみる防災① 輪中集落の工夫～岐阜県、輪之内町」
生徒用ワークシート (左)、教師用解答 (右)



(2) 動画(.mp4) 「動画check」の動画24点(下表)をご覧になれます。

収録映像の一覧と資料集掲載ページ

- p.4④⑥ アイスランドのギャオ (24秒)
- p.11④ 京戸川扇状地 (1分7秒)
- p.11⑦ 氾濫原 (1分52秒)
- p.12① 河岸段丘 (1分4秒)
- p.13⑦ メサとビュート (31秒)
- p.14③ 海岸平野 (1分30秒)
- p.15⑨ リアス海岸 (1分22秒)
- p.67⑩①② インドネシア・ムスリムの礼拝 (1分10秒)
- p.72① 油やしの収穫 (42秒)
- p.72⑤ 天然ゴムの樹液の採取 (23秒)
- p.77④ えびの養殖池 (2分13秒)
- p.80① チェンナイ旧市街のバザール通り (24秒)
- p.98① 世界一の高さを誇るブルジュ・ハリファ (1分29秒)
- p.98② 世界最大級の屋内スキー場 (1分13秒)
- p.105④ ごみから育った草 (1分26秒)
- p.107③ 低地の運河と風車 (25秒)
- p.117⑧ フィヨルドにつくられた さけ の養殖場 (36秒)
- p.125⑤ 洋上の風力発電所 (2分12秒)
- p.129⑩ イコンに向かって祈りをささげる人 (37秒)
- p.140① 小麦の収穫 (17秒)
- p.151④ アメリカ合衆国とメキシコを分かつ両国の国境 (29秒)
- p.153⑤ アタカマ砂漠 (44秒)
- p.153⑦ モレノ氷河と観光客 (1分7秒)
- p.161⑤ 拡張工事完成後のアグアクララ閘門を通る日本郵船の船 (32秒)



▲「アイスランドのギャオ」

※ご利用の手順を記載した案内用紙は、指導者用副教材（添本）に添付いたします。

二次元コードから
収録コンテンツの
サンプルをチェック!



●PCの方は以下のURLからアクセスください。

URL : https://www.teikokushoin.co.jp/top/ad_ws/supplementary/index.html



帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29
TEL 03-3262-4795 (代)
URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>